

良食味ミニトマト産地の育成

鹿行農林事務所経営・普及部門

近年、栽培面積が減少する大玉トマトに代わり、ミニトマト栽培が管内のトマト栽培面積の8割を占めるまでに増加しています。施肥改善等による着色不良果低減技術の普及拡大に取り組んだ結果、品質・収量が大きく改善しました。また、JA研究会（部）と連携して様々な品種を試作し、収量・品質、栽培特性に優れた新たな品種の導入につなげることができました。

着色不良果低減技術の普及拡大

ミニトマトでは、着色不良果（肩部が黄色または緑色になる生理障害果）の発生が問題となっていました。主な原因は土壌中のカリ欠乏であることを前年度までに突き止め、JAと連携し、取組対象15戸に対して、土壌分析結果に基づいたカリ含量の改善を指導しました。その結果、取組農家のA品率が最大27%向上するなど、着色不良果を大幅に減らすことができました。

土壌分析結果(作付前 2月)

	適正值	分析値
加里*	50~65	13
苦土*	70~90	96
苦土/加里	1.1~1.3	7.4

*(mg/乾土100g中)



硫酸カリ(120kg/10a)
による土壌改良

土壌分析結果(生育中 6月)

	適正值	分析値
加里*	50~65	63
苦土*	70~90	106
苦土/加里	1.1~1.3	1.7

*(mg/乾土100g中)

図 施肥改善指導による土壌分析値の変化



圃場巡回の様子

研究組織による新品種選定支援

JA部会には、若手生産者を中心とした研究会（部）が組織され、品種選定や技術の実証等を精力的に行っています。当部門では、高品質で収量が高く、栽培しやすい品種を選定するため、研究会とともに、10種以上の品種を試作し、圃場巡回や収量・品質調査結果をふまえた意見交換を経て、30年産から新たに品種サンチェリーピュアプラスを部会指定品種として導入することができました。

現地栽培講習会等による技術普及

技術情報の共有を図るため現地栽培講習会を新たに開催するなど、着色不良果対策の有効性を示し、技術の普及に努めました。特に講習会では、改善圃場において、対策のポイントや今後の栽培管理、病虫害対策について情報を共有しました。この結果、土壌改善の有効性が産地内に広く認知され、部会をあげて対策に取り組むこととなりました。



講習会の様子